

自立活動だより

紀北支援学校自立活動部

令和6年1月発行

1月の自立活動だよりは、高等部の知的障害学級（通称：1ブロック）1年生、肢体不自由学級（通称：2ブロック）2年生より自立活動について紹介します。

今年度の高等部は1ブロック71名、2ブロック16名の生徒が在籍しています。自立活動の授業では、各生徒の実態をもとに目標を設定し、達成するための必要な学習に日々取り組んでいます。

【1ブロックの取組】

1年生 Aさんの事例

☆実態

- ・発語はないが、日常生活の中での言葉かけは理解し指示に従える。
- ・座って前屈みの姿勢で耳を塞いでいることが多く、目が合いにくい。
- ・やりたいことは行動で表現する。

☆ねらい（心理的な安定、人間関係の形成、コミュニケーション）

- ・楽しい活動を通して、人と関わったり要求を出したりする活動をすることで心理的な安定を図れるようになる。
- ・他者と共に活動することを通して、相手の調子に合わせて意図を感じ取れたりできるようになる。

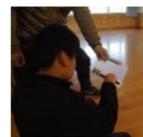
☆活動内容

- ・楽しい活動を通して他者と関わる（バランスボールでの活動）
- ・要求を出す（写真カードから行きたい場所、好きな活動を選ぶ）
- ・相手の調子に合わせる、他者の意図理解（散歩）

☆経過・成果

バランスボールに誘うと担任に視線を向けたり、徐々に近づいてきたりすることが増えていきました。また普段はじっくり見ることが少なかったAさんでしたが、写真から理解につながれることもわかりました。それをきっかけに、写真カードの活用を始めました。今までは目的地まで行くのにコースアウトすることが多かったのですが、遠くの教室への移動も写真を見て確認しながらスムーズに歩いて行けるようになりました。そこから、行きたい場所のカード2種類から選んで、選んだらすぐにその場所に行くことを始めました。最初は選んでもなかなか移動しなかったのですが、繰り返し「行っていいんだよ」ということを伝え、選んで行きたい場所に移動できるようになりました。行きたい場所で好きに活動することを通して「カードを選んだら行ける。楽しいことができる。」という理解に繋がっていったようです。

それから、「教師と歩調を合わせて歩く」課題を始めました。最初は座り込んだり、走って違う方向に行ったりしていましたが、今ではグラウンドを3周一緒に歩くこともできます。「言われていることがわかる安心感」そして「自分の意思是伝えたら伝わるんだという安心感」がとても大切で、これが心理的な安定に繋がっていき、よりコミュニケーションがスムーズになってきています。友だちに「教室においで」と声をかけられると、さっと立ち上がり自分の席に着くことも増えてきています。



【2ブロックの取組】

2年生 Bさんの事例

☆実態

- ・指さしや手渡しなどの簡単なやりとりができる。写真カードや絵カードなどで身近な相手が分かる。「しやしん」「とって」「やって」などの言葉を模倣し表出できるようになってきた。
- ・ヘッドギアと短下肢装具を着用し、片側介助で歩行可能だが、疲れると左足が右足に引っかかることがある。手摺りに両手でつかまり、横歩きで移動できる。

☆ねらい

- ・相手に伝えるための発声やジェスチャーなどを増やす。（コミュニケーション）
- ・目的を意識しながら介助歩行に取り組み、歩行の安定につなげる。（心理的な安定、身体の動き、コミュニケーション）

☆活動内容

- ・『健康観察のファイル』を見せて行き先（保健室）を確認する。
- ・『健康観察のファイル』を持って、介助歩行で保健室に届け、その後教室に戻る。
- ・教室に戻る経路は行きたいコースを教師と相談しながら決める。
- ・戻ってきてから水分補給をする。飲む量は本人が決める。（飲むか飲まないかの意思表示）

☆経過・成果

1学期から引き続き取り組んでいる活動なので、『健康観察のファイル』を見ると行き先がわかり、車椅子からの立ち上がりはやく、介助歩行で保健室に向かうことができています。ファイルを持ちながらの歩行なので、時々ファイルを落とすことがありますが、しゃがんで拾うこともできています。ファイルを保健室に届けた後は、行きたい方向を手で指して伝えられています。登校時の約束を覚えていて、約束をした教師の教室に行ったり、グラウンドのマラソン練習が気になるときは玄関からグラウンド横の道を行ったり、入り口前の2段の階段を上ったり、行きたいところを手で指したり、教師の問いかけにうなずいたりすることで意思を伝え、いろいろな場所を安定して歩くことができました。

教室に戻ってきてからの水分補給の時間には、『O×カード』を使って、お茶を飲むか飲まないかの意思を伝えるためのやりとりの時間にしました。刺激の少ない教室で行っている自立活動の抽出の時間には、担当の教師と「やる、やらない」のやりとりを『O×カード』を使って伝えることができています。最初は教室にいる人が気になり、やりとりに集中できないことがありましたが、カードをしっかり見て指さすように言葉かけながら、お茶のおかわりを飲むか飲まないか『O×カード』で伝えられるようになってきました。『O×カード』の意味も理解できてきているように思われます。うなずいて伝えたり、手を合わせて伝えたりする中で、ジェスチャー以外にも『O×カード』での伝え方も広がってきています。

今後、本生徒の意思を伝えたり、見通しを持ったり、計画を立てたりする力をつけるため、事前に歩くコースを本生徒と『場所や人物のカード』を使って決めてから歩行に出かける取り組みを行いたいと考えています。

